

## 議会だより 編集特別委員会 研修報告

### 新聞社で 紙面改善を研修

議会だより編集特別委員会は、10月8日、福岡市の西日本新聞本社を訪ね、紙面改善に向けて研修を行った。

今年で発行10年目を迎える「市議会だより」だが、プロ記者に指導を仰ぐのは初めての経験。

当日は、読者を惹きつける紙面や読みやすい紙面づくりに関して、見出しや記事の書き方など講義を受けた。

講師は、同社「こどもふれあい本部」のチーフアドバイザー溝越明氏。同氏は「読まれる紙面づくり」と題し、他市町の広報紙も引用して魅力ある紙面について講義された。

また、事前に渡してい

た本市議会の紙面に関する指摘も受け、大変参考になった。

### アドバイザーに うなずく

具体的には、大見出しをつける重要事項は、リード（前書き）で記載し、

本文でも初めの位置に。また議案審査の順番通りに掲載するのではなく、主要な記事は前に置き、市

民の関心の高い情報を大きく掲載する。

見出しは10字前後が見やすく、2段見出しやグラフの活用など工夫した。らなどのアドバイザーに、一同うなずきながら聴いていた。

なお、研修は記者からの取材も受け、翌9日付け「西日本新聞の筑後版」で写真付きで掲載された。



西日本新聞社での研修風景

## 傍聴席の声



傍聴して良かった。

夜間照明問題の中で、校区コミュニティのあり方に触れられ、コミュニティに対しても市の考えを具体的に示し、市民にも説明してほしいと思った。（60代女性）

児童保育事業について議論があった。公設民営である現在の運営形態をもっと真剣に考えてほしい。（60代女性）

◆ 一般質問のひきこもり対策について傍聴したが、プライバシーの問題があるにしても実態をつかむ努力はして欲しい。多くの若者、そして親が悩んでいる。何ができるのか見えてくると思う。（60代女性）

◆ 一般質問の不登校問題について理解できたので

今回も、多くの市民のみなさんに傍聴いただき、ありがとうございました。みなさんが選んだ議員が、どのような活動をしているか、また議会がどのように行われているか、次回も多くの方の傍聴をお待ちしています。